

市場から世界をみれば

IS&C 情報システム株式会社 大谷淳一



多くの特許を押しさえようとする構築である。データベースを構築するだけなベースを構築するだけな関係は東大医科学研究所のヒトゲノム解析センターの冷凍施設で凍結保存されるという。対象となる疾患は、癌、糖尿病、脳梗塞、白内障、緑内障、歯周病、狭心症、心筋梗塞、不整脈、気管支ぜんそく、結核、子宮筋腫、花粉症、てんかんなどの病気で、多岐にわたっている。プロジェクトは、04年2月末の時点で4万885人に依頼し、3万6175人が同意したという。同意率は88%に上る(06年11月末の時点で、日本のDNAサンプルは23万5147件となっているという)。

取った「概要版」が発表されたが、科学的にはこのときが本当の節目であり、遺伝子は3万2000個であることなどが明らかになった。「03年4月15日朝日新聞日刊」解読完了を受けて、巨大な利権を狙う各国は、遺伝子の応用という新たな段階の「遺伝子戦争」へと突入する。競い合うもの一つが、たんぱく質の構造と機能の解析だ。遺伝子をつくるたんぱく質が生命活動を担っているのだから、その研究は新薬の開発につながる。ヒトゲノム解析とは違い、たんぱく質の解析は特許に直結し、膨大な利益を生む可能性がある。そのため、できるだけ早く、つまりデータベースの開発

第15回「遺伝子情報バンク計画の問題点」

の遺伝情報に忠じた医療の実現プロジェクト、略称は「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」である。このプロジェクトは、次の3つを主目的とする。①30万人遺伝子情報バンクの整備②遺伝子情報バンクを利用したSNP解析③個人のSNP情報・診療情報のデータベース整備と匿名化技術の開発

「遺伝子戦争は農作物の世界だけの話ではない。人間の遺伝子もまた争いの元となっている。」03年4月14日、ヒトの遺伝情報である「ヒトゲノム」について、日本・アメリカ・イギリスなど6カ国首脳は、全塩基配列の解読完了を宣言した。00年に9割を読み

「略歴」1957年北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲卸売業者向けのコンサル